獨協大学
SDGs報告書
2021

学長メッセージ

多様な人材が学び、働き、成長する場所として、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

獨協大学 学長 山路朝彦

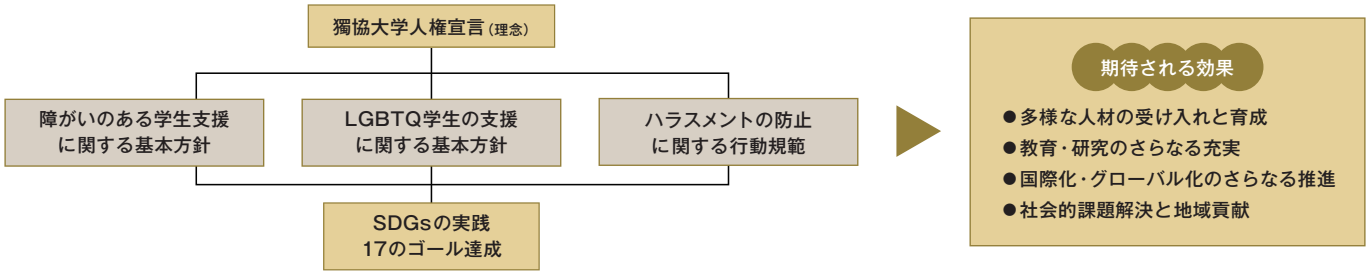
本学は、2021年3月、埼玉県内の大学として初めて「埼玉県SDGsパートナー」への登録をいたしました。これは、2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）に向けた計画を立案・実行し、その過程と結果を公表するという埼玉県の制度です。本学では3つの課題 ①国内外の複雑な課題に自ら主体的に考え行動する地球規模の視野を持った「SDGsの達成に寄与する人材の育成」、②「ダイバーシティ＆インクルージョンの推進と女性の活躍推進」、そして③「CO_2排出量削減」に取り組むとともに、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲット達成に向けた教育・研究を推進していくこととしました。

これに先駆け、本学では2000年に国連で採択されたミレニアム開発目標（MDGs）にある「環境の持続可能性の確保」に呼応し、環境保護への取り組みを実践してまいりました。2007年竣工の天野貞祐記念館を起点とするキャンパス再編計画において、建物の建替えに伴い、太陽光発電システムや自然換気システムなどの省CO_2設備を積極的に導入し、エネルギー使用量の削減、地球温暖化抑制に努めています。また、生物多様性を体現する緑地を整備することで、自然と共存する中で学生生活が営まれるように模索してまいりました。このキャンパス再編計画は、環境に配慮したインフラの整備という側面を超えて、自ら課題を発見し、解決の可能性について考える（科学する）人材育成の場、すなわち建学の理念である「学問を通じた人間形成の場」としての大学を整備していこうという一貫した目的を内包したものです。

本学では学則第1条に、本学の目的を「社会の要求する学術の理論および応用を研究、教授することによって人間を形成し、あわせて獨協学園の伝統である外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成する」と規定しています。また2020年には、SDGsの根本理念にある「誰一人取り残さない」という社会の根源的な課題に取り組むすべく「獨協大学人権宣言」を公表し、誰もが平等な教育研究の機会が与えられ、その人権が擁護され、人として成長できる場を創造することを宣言いたしました。すなわち、本学の使命はSDGsの達成を担う「実践的な独立の人格」を育成し、社会の発展に寄与することにあり、SDGsの目標達成についても毎年検証してまいります。

なお、本学では持続可能な社会の実現に向けた取り組みを、2013年度より毎年『環境報告書』としてご紹介してまいりましたが、「埼玉県SDGsパートナー」への登録を機会に、本年度より『SDGs 報告書』として発行することといたしました。

【本学におけるSDGs推進のイメージと期待される効果】



本学のSDGsに向けた取り組み方針

（埼玉県SDGsパートナー登録におけるSDGs 達成に向けた宣言より）

1 地球規模の視野を持った人材の育成（3-4ページ）

2 ダイバーシティ＆インクルージョンの推進と女性の活躍推進（5ページ）

3 CO_2 排出量削減（6ページ）

本学は、2021年8月、総合企画委員会の下に
SDGs推進連絡会を設置し、
全学を挙げて目標に向かい取り組むこととしました。

獨協大学人権宣言

獨協大学は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を実現するために、誰もが平等な教育研究の機会を与えられ、その人権が擁護され、人として成長できる場を創造することを宣言します。

1. 獨協大学は、国や地域の法令、建学の理念、学則などの規範を遵守します。
2. 獨協大学は、すべての人間は生まれながらにして平等であるとの認識に立ち、人権を擁護し、多様性を尊重します。学生、教職員、その他関係者は、互いの尊厳を守ります。
3. 獨協大学は、国籍、性別、宗教、年齢、障がいの有無、性的指向・性自認などによる偏見や差別を許しません。人間の尊厳を損なう行為を決して放置せず、健全な教育研究環境と職場環境の整備を加速させます。
4. 獨協大学は、学生、教職員、その他関係者が持つ多様性が創造的な教育研究成果を生み出す体制を整備します。
5. 獨協大学は、地域との連携を深めながら、誰もが互いに人格と個性を認め合い、支え合う共生社会の構築に貢献します。

2020年8月15日　獨協大学

獨協大学環境宣言

私たちは、地域環境や地球環境の保全を重要課題とする社会の責任ある一員として、すべての教育、研究活動を通じて、人々の健康増進と環境保全に寄与することを目標に掲げ、以下のことに積極的に取り組みます。

◎ 環境教育、環境研究、環境啓発活動に取り組みます
◎ 省エネルギーや環境保全に適合した設備、備品を使用します
◎ モノや資源を大切に使うとともに、ゴミの減量化やリサイクルを推進します

2008年6月　獨協大学

1 地球規模の視野を持った人材の育成

SDGsの達成に貢献する人材の育成に向けて、
地域社会との連携を強化

「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」が環境省「水・土壌環境保全活動功労者表彰」を受賞

① 表彰状伝授式での記念撮影―小池要子埼玉県環境部長(左)と米山教授―　② 伝右川親水護岸に整備された船着場で実施したカヌー体験会　③ 美園小学校「土曜チャレンジスクール」での環境教育　④ 伝右川再生会議後の記念撮影

経済学部国際環境経済学科米山昌幸ゼミの「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」は、市民団体、NPO、行政等と連携し、カヌーを用いた浮遊ゴミの回収作業、水質調査、カヌー体験会、水生生物調査、小学校での環境教育などを通じて、綾瀬川の支川であり、本学の北縁と東縁を流れる伝右川の再生・浄化活動を行っています。また、2014年度からは、年間の活動報告やパネルディスカッションを行う「伝右川再生会議」を毎年開催しています。2020年12月には、地域における水環境の保全に貢献したとして、環境省「令和2年度 水・土壌環境保全活動功労者表彰」を受賞しました。

伝統産業×獨協大生で地域にSDGsを広める

「SDGs×獨協大生×草加せんべい」チームは、大学で学んでいるSDGsを草加市の伝統産業である草加せんべいと結び付け、市民の皆さんにSDGsに取り組んでいただくことを目的に活動を行っています。チームのメンバーは「草加煎餅まるそう一福」の方々との対話を通じて、草加煎餅の製造過程で廃棄される米ぬかを有効活用した「せんべい屋の石けん」を製造。草加煎餅とセットで販売することで市民の皆さんに地元の名産品を切り口にSDGsに関心を持っていただくことができました。また、このチームでは、活動や調査の結果をまとめた冊子『草加！これがSDGsか！ SDGs Guidebook 2021』を発行し、SDGsの普及にも取り組んでいます。

「SDGs×獨協大生×草加せんべいチーム」のメンバー

獨協大学環境週間 “Earth Week Dokkyo 2021”

① 講演・討論会「フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」における福島第一原子力発電所・廃炉資料館の視察報告　② 配布するハーブの花束を作るためにラベンダーを収穫　③ 蜜蝋ラップ作りワークショップ　④ 地域振興応援物産展

学生・教職員の環境意識を高めてキャンパスライフを見直し、持続可能な地球社会の実現を目指すことを目的に、2016年より獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”を継続的に開催しています。6月の夏季には、西棟の省エネ・創エネ設備見学ツアー、省エネコンサルタント・教職員および学生による「省エネ推進会議」、「気軽にできる環境にやさしい生活～身近なハーブを活用しよう～」、講演・討論会「フクシマの未来を考える～大学生のうちに知っておくべきこと～」などのイベントが、12月の冬季には「蜜蝋ラップ作りワークショップ」、「エッグキャンドルナイト」、「伝右川再生会議」、福島県や越谷市の「地域振興応援物産展」、オンラインによる「みんなで話そうジェンダーのこと」などのイベントが行われました。

福島県田村市における「持続可能なまちづくり」創造事業への挑戦

① バイオマス発電に取り組む田村バイオエナジーを視察　② ホップジャパンの本間社長にSDGsへの取り組みを聞く　③ テラス石森にて田村市役所職員との意見交換会　④ 本学との連携協定締結式に来学された白石高司田村市長との意見交換会

本学は2021年度、福島イノベーション・コースト構想推進機構の募集する「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」に採択され、「外国語教育、環境教育を活用した『持続可能なまちづくり』創造事業」をテーマに、2025年度までの5年間、田村市をはじめとした福島県の浜通り市町村等との間で継続的な関係を構築し、「外国語教育」「環境教育」「地域づくり」事業を展開していくことになりました。サーキュラー・エコノミー、ゼロ・ウェイスト、再生可能エネルギー100%、脱炭素社会の実現に向けて、環境に配慮した「持続可能なまちづくり」を通じ、SDGs達成に貢献できる人材と同地域の復興に貢献する人材を育成していきます。

福島県における「大学生と集落の協働による地域活性化事業」での取り組み

2017年度より福島県の「大学生等による地域創生推進事業」に取り組んでおり、2021年度は本学からの4チームが南会津町耻風（はじかぜ）地区、田村市船引町瀬川地区、喜多方市高郷町本村地区、小野町谷津作行政区で活動を展開しています。南会津町耻風地区で活動5年目を迎える経済学部国際環境経済学科のゼミは、コロナの影響により2年ぶりの交流活動となりましたが、地域の重要な食文化であるソバ打ち体験や新たな観光資源開発に向けた登山体験、地域の人々との意見交換会などを行いました。また、2021年12月に開催された“Earth Week Dokkyo”では、この福島県事業の4地区のPRと農産物の販売促進を目的として、合同で地域振興応援物産展を実施しました。

耻風地区の ① ソバ打ち体験と ② 雪上トレッキングコース視察の様子　本村地区の ③ フットバスを整備する「ほんそんみらいプロジェクト」メンバーと ④ フットバスの看板製作

地元のお米を学生食堂で地産地消

本学の学生は越谷市での田植え・稲刈りに参加しています。また、NPOとともに、農家の水路整備にも協力しています。

草加や越谷などには、江戸時代の新田開発によって開かれた水田が現在も残っており、その貯水能力は約660万立方メートル（東京ドーム5.5杯分）にも相当します。一時的に田んぼに水が溜まることで、河川の急激な増水を抑え、氾濫被害の抑制に寄与しています。水田の下流域にある都市部で暮らす私たちは、水田の持つ洪水調整能力の恩恵を知らぬ間に受けているのです。しかし、コロナ禍により多くの飲食店が営業自粛に追い込まれ、コメ農家も販路を失い在庫超過に陥ったことから、米価の下落につながっています。米価下落は農家経営に深刻なダメージを与え、ひいては離農につながります。本学では、学生食堂で使用する米の80%に草加市および越谷市産を使用するとともに、学生に対しても地産地消の重要性を伝えています。

2 ダイバーシティ＆インクルージョンの推進と女性の活躍推進

障がいのある学生、LGBTQの学生の支援や
教職員が多様な働き方のできる環境づくり

障がいのある学生等の支援

2020年8月に制定した「獨協大学人権宣言」が謳う「人権を擁護し、多様性を尊重する」「偏見や差別を許さない」という精神に基づき、以下のルールを定めています。

- 獨協大学ハラスメントの防止に関する行動規範
- 獨協大学における障がいのある学生支援に関する基本方針
- 獨協大学におけるLGBTQ学生の支援に関する基本方針

さらに、2021年5月には、障がいのある学生等を組織横断的に支援するための体制を整備・運営することを目的に「学生支援連絡会」を設置しました。学生支援連絡会では、当事者学生へのアンケートやインタビューを参考にしつつ、『障がいのある学生支援ハンドブック』を作成・配付し、学生および教職員への周知と啓発を図っています。

『障がいのある学生支援ハンドブック』
学生版（左）と教職員版

教職員の多様な働き方支援

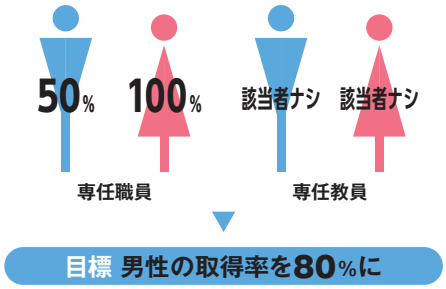
女性の教職員が活躍できる環境および教職員が安心して次世代を育成できる環境の整備を行うため、2021年～2024年の行動計画に、以下の目標を掲げています。

『育児・介護のための
両立支援ハンドブック』

① 男性の教職員の育児休業の取得率を80%とする。
② 専任事務職員の各月ごとの平均残業時間数を13時間以下とする。
③ 専任事務職員の課長補佐以上の役職者に占める女性割合を25%以上とする。

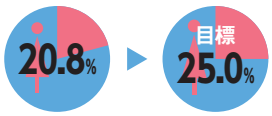
仕事と育児・介護などの両立支援に向けて休業・短時間勤務などの制度を設けているほか、『育児・介護のための両立支援ハンドブック』の配付や制度に関する研修などを通じて、制度を利用しやすい環境づくりを進めてきました。こういった取り組みが評価され、埼玉県の「多様な働き方実践企業」のゴールド＋認定を取得しています。

男女別の育児休暇取得率（2020年度実績）



ひと月の平均時間外労働時間（2020年度実績）

管理職に占める女性労働者の割合（職員）
（2021年4月1日現在）



グランツコンテストを開催

2021年度の雄飛祭では、従来のミス・ミスターコンテストに代わり「グランツコンテスト」が行われ、応募者が関心を持っているトピックと、それを広める活動について審査されました。グランツはドイツ語で「輝き」を意味し、主催する学生団体・雄飛祭実行委員会によると、応募者が本コンテストを通じて自身の新たな輝きを見つけられるようにという意味が込められているとのことです。審査はSNS活動とプレゼンテーションの2つの基準で行われ、投票の結果、【エコ×ファッション・日本における性差別】を主題に発表を行った国際教養学部3年の髙橋妃代さんがグランプリに輝きました。

今年のロゴは性別のない生き物であるクラゲをイメージして作成

ファイナリスト3名

似顔絵を発表する髙橋さん

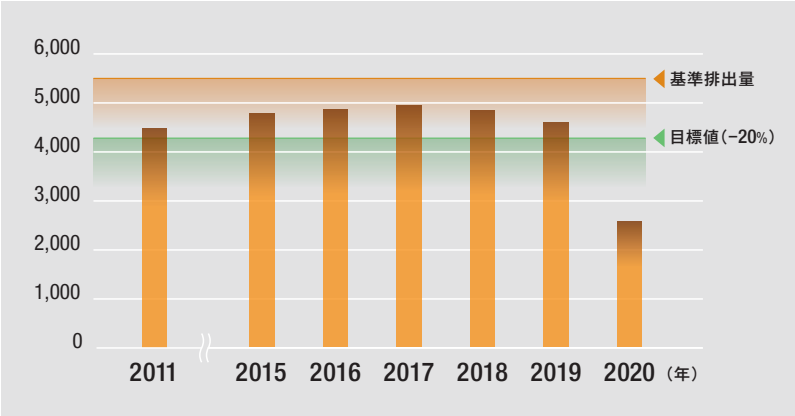
3 CO_2排出量削減

2030年のCO_2排出量46%削減に向けて、
自然エネルギーの活用やエネルギーの効率的利用を推進

キャンパスCO_2排出量削減の取り組みを強化

埼玉県は、3年間連続してのエネルギー使用量が原油換算で年間1,500キロリットル以上の事業者に対して、CO_2削減目標を設定し目標達成を目指す目標設定型排出量取引制度を実施しています。本学は、第1計画期間（2011～2014年度）の8%削減目標および第2計画期間（2015～2019年度）の15%削減目標を達成しており（第2計画期間は第1計画期間のクレジットを充填）、第3計画期間（2020～2024年度）の22%削減目標の達成に向けて取り組みを強化しています。

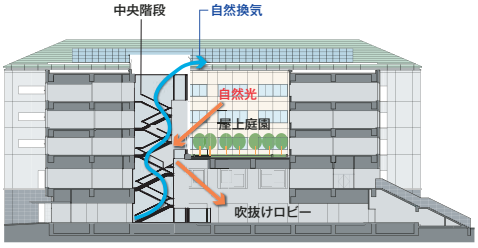
獨協大学 CO_2 排出量 年間推移（単位：t-CO_2）



※ 電気の排出係数=0.495で計算　※基準排出量は2004～2006年度の3年間平均値
※ 2020年度のCO_2排出量が大きく低減しているのは、コロナ禍により対面授業が減少した影響によるものと考えられます。

自然エネルギーの活用

2007年に建設された「天野貞祐記念館」以降、本学では自然エネルギーを積極的に活用することで、CO_2排出量削減を実現してきました。太陽光発電システムをはじめ、風の力で換気を行う「自然換気システム」、太陽光を取り入れる「光ダクト式階段室」「ライトシェルフ」、夏は直射日光を遮り冬は日射しを取り込む「可動水平ルーバー」、地中熱を冷暖房に利用する「地中熱利用システム」などを導入しています。



教室棟自然換気システム

省エネルギーの推進

本学では2015年より省エネコンサルタントを導入し、毎月、省エネ推進会議を開催し、学生や教職員と知見を共有することにより、CO_2排出量削減に取り組んできました。PDCAサイクルにより、エネルギー使用の継続的改善とCO_2排出量削減を推進しています。

獨協大学 セミナーハウス（仮称）

2023年3月、本学の北側に位置する新たな敷地に「獨協大学セミナーハウス（仮称）」が竣工予定です。この建物は、太陽光発電システム、自然換気、高断熱化、昼光利用、日射遮へいなど、CO_2排出量削減に寄与する技術が導入されたゼロエミッション建物で、CO_2排出量削減効果が期待されます。これらが認められ、国土交通省が実施するサステナブル建物等先導事業（補助金事業）に採択されました。

エントランス広場からの鳥瞰イメージ

芝生広場からの外観イメージ

カフェ・ラウンジの内観イメージ

生物多様性豊かなキャンパスから、持続可能な社会づくりに向けた気づきが広がっています。

獨協大学のキャンパスには、緑の回廊や田んぼなどがあり、豊かな生態系が広がっています。
一方、それを脅かす外来生物も発見されています。学生たちは、こういった自然の変化を身近に観察したり、
SDGsについて学ぶことで、持続可能な社会づくりに向けた活動を展開しています。

グリーンキャンパス

キャンパスには、昆虫や鳥、小動物などが生息し、自由に行き来しています。2021年には5年連続でツミ(日本最小の猛禽類)の営巣が確認されました。猛禽類は里山における食物連鎖の頂点に位置することから、キャンパスには豊かな生態系が広がっていることがうかがえます。また、近隣の市民や子どもたちがキャンパスに生息する多様な生物を観察する機会*も提供しています。キャンパス内の森と、草加市内の公園や水辺をつなぐことで、地域全体の緑化にも貢献しています。 ＊2021年度はコロナ禍により中止。

田んぼ

本学のある一帯は、もともと田んぼでした。学生たちは、田植えや稲刈りなどの農業体験や、収穫した「獨協米」の試食などを通して、食・農・環境のつながりを学びます。

屋上庭園

近隣の里山を再現した庭園で、130種類以上の草木や野菜を栽培しています。キャンパスの落ち葉と女子学生寮の生ゴミで作った堆肥で、無農薬野菜を育てています。

獨協大学
DOKKYO UNIVERSITY

発行日	2022年3月1日
発　行	獨協大学　総合企画部　総合企画課 〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1 TEL 048(946)1635 FAX 048(943)3160
ホームページ	https://www.dokkyo.ac.jp/